

かしま

HOT通信

12月号 Vol.383

令和6年(2024年)12月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会
〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容をご覧頂けます。



1 巻頭特集

- ① 地域包括医療病棟のご紹介
- ② 特定健診を受けましょう!

「かしま朝市」をかしま病院敷地内で開催しました!

3 コラム ひんがら目(210)
『どんどん進歩する肺癌の診療
医療が解決すべきもう一つの問題』
呼吸器科 部長 山根 喜男

4 ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
盲導犬についての医療安全研修を行いました
かしま荘通信

年末年始の診療日等について

かしま病院外来棟の年末年始の診療について、
下記の通りご案内いたします。

令和6年 12月				令和7年 1月			
28日 土	29日 日	30日 月	31日 火	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土
午前のみ診療	休診	休診	休診	休診	休診	休診	午前のみ診療

休診期間中は、送迎バスも運休しておりますので、ご注意ください。

巻頭特集

特集 ① 11月1日より東2病棟に開設。地域包括医療病棟のご紹介

特集 ② 早めのチェックで安心。特定健診を受けましょう!

特集 ① 地域包括医療病棟のご紹介

近年では、高齢者の軽症、中等症の救急搬送が増加しています。これまで急性期病棟に入院した一部の高齢者は治療を受けている間に離床が進まずADLが低下し、急性期から回復期へ転院することとなり、在宅復帰が遅くなるケースが生じておりました。この現状を解決すべく、新たに「地域包括医療病棟」を開設いたしました。
今月号では、地域包括医療病棟の役割や対象の患者さま、医療サービスについてご紹介いたします。

地域包括医療病棟とは

地域包括医療病棟では、比較的高齢の救急患者さまを受け入れる体制を整え、リハビリテーション、栄養管理、退院支援等の機能を包括的に行います。治す医療と同時に支える医療を提供することで、ADLの維持、向上および早期の在宅復帰を目指した医療・ケアを提供します。

地域包括医療病棟概要

- 東2病棟・43床
- 主たる対象患者
主に整形外科 内科
- 入院期間
平均在院日数は21日以内
※患者さまの状態でより適切な入院期間を提案いたします。

入院費について

入院費の算定は、地域包括医療病棟入院料となります。
投薬料、注射料、簡単な処置料、検査料、画像診断料、入院基本料は入院費に含まれます。
ただし、リハビリテーション料、手術料等、食事の費用は含まれません。

詳細は入院窓口までお問い合わせください。

地域包括医療病棟における医療サービスのイメージ

救急患者を受け入れる体制を整備

一定の医療資源を投入し、急性期を速やかに離脱

早期の退院に向け、リハビリ、栄養管理等を提供

退院に向けた適切な意思決定支援

早期の在宅復帰
在宅医療、介護との連携

10対1の看護配置に加えて、療法士、管理栄養士、看護補助者(介護福祉士含む)による高齢者医療に必要な多職種配置

包括的に提供

② 特定健診を受けましょう！

10月26日(土)にいわき市総合保健福祉センターで開催された「今、聴かないと!!」行列のできる市民公開講座「特定健診(特定健康診査)を受けよう!」にて、当院の中山文枝医師が「いわき検診を受けようプロジェクト」について講演をいたしました。

健康診断

健康診断の目的は、健康な生活を続けるために行われるものです。定期的に健診を受けることは、健康状態や健康リスクを把握し、生活習慣を見直すきっかけとなります。加えて、病気の早期発見により早い段階での治療がしやすく、進行を防ぐことができ、病気の予防対策として保健指導を受けながら生活習慣の改善ができます。

いわき市の健診受診率

いわき市の特定健診受診率は、31.85%です。県内市町村平均を10%ほど下回っています(6年度3月健康いわき21号)。

治療中の疾患のある方も通院と健診を併用することで小さな発見、変化を拾い上げることができます。

まとめ：地域全体の健康向上

- ・市民一人ひとりが健康であることは 医療費の削減
- ・地域全体の生活の質を向上させる
- ・「まだ元気だから大丈夫」と思いがち
- ・早めのチェックが未来の安心につながる
- ・定期的に健康診断を受けることで、自分と家族の



いわき市の現状

メタボ率 (2019年)

男性 39.8% 全国ワースト6位
女性 26.9% 全国ワースト4位

食塩摂取量 (2016年)

男性 11.9% 全国ワースト2位
女性 9.9% 全国ワースト2位

喫煙率 (2022年)

男性 33.2% 全国ワースト1位
女性 10.5% 全国ワースト2位

健康リスクが高い市民が多くなっています。

いわき健康チャレンジ事業

いわき市では生活習慣病予防の取り組みとして「いわき健康チャレンジ事業」を行っています。日々の健康づくりとして運動や食事、健診(検診)受診などの日々の取り組みを記録するとポイントが貯まり、お得な特典をゲットすることができます。

特定健診について

特定健診とは、糖尿病等の生活習慣病発症や重症化予防を目的として、メタボリックシンドローム

▲「健康チャレンジプラン記入台帳」は各地区保健福祉センターや各公民館で配布しています。いわき市のホームページからもダウンロードできます。

(内臓脂肪症候群)に着目した検査項目での健康診査を行うことです。

● 対象者

いわき市の国民健康保険に加入している方で、40歳の方

※6か月以上継続して入院している方、施設に入所の方、妊婦などは除く

● 料金

無料で
無料で受けると1万円相当の健診を、無料で受けることができます。

● 受診期間 (例年同じ期間)

令和6年5月1日(水)～令和7年1月31日(金)

● 受診方法

個別健診：市内の特定健診登録医療機関で実施する健診で、電話または直接申し込み
集団健診：市内の公民館や集会所で実施する健診で、WEB予約またはコールセンターで申し込み

アフターフォロー「特定保健指導」について

特定健診の結果から、内臓脂肪の蓄積とリスク要因や年齢に応じた特定保健指導対象者として選定された方へ特定保健指導を実施します。糖尿病等の生活習慣病、特にメタボリックシンドロームに該当する方や予備群の方を減少させることが目的です。

● 特定保健指導対象者

腹囲	追加リスク		保健指導レベル	
	・腹囲・脂質・血糖	喫煙歴	40~64歳	65~74歳
① 男性 85cm以上 女性 90cm以上	2つ以上該当	あり	積極的支援	
	1つ該当	なし	動機付け支援	
② ①以外で BMI≥25	1つ該当	あり	積極的支援	
	2つ該当	あり		
	1つ該当	なし	動機付け支援	

※高血圧、脂質異常症または糖尿病の治療に関わる薬剤を服用している方を除きます。

厚生労働省が定める基準のうち利用希望者へ行います。
● 料金 ●
無料

健診は受けて結果を見たら終わりではなく、結果からどう行動していくかが大切です。アフターフォローを積極的に利用しましょう!

いわき市の特定健診を受けましょう!

市民一人ひとりが健康であることは医療費の削減につながり、地域全体の生活の質を向上させることができます。「まだ元気だから大丈夫」と思いがちですが早めのチェックは未来の安心につながります。自分と家族を守り、健康で住みやすいまちづくりのため、健診を受けましょう!

Kashima Asaichi

かしま朝市を かしま病院 敷地内で 開催しました!

11月24日(日)7時～9時に、鹿島地区主催のかしま朝市(主催:鹿島地区地域振興協議会)をかしま病院身体障がい者駐車場で初めて開催しました。

この日は、朝はとても冷え込んだものの、日中は天気にも大変恵まれ絶好の朝市日和となりました。

かしま朝市の楽しみ方は3つ、①野菜や青果を販売する軽トラ市、②健康相談や血圧測定などを行う健康ブース、③パンやお菓子などを販売するマルシェです。かしま病院からは②の健康ブースを出店し、70名近くの方がお越しくださいました。



「健康」と「つながり」をテーマにした朝市のスタートは、出店者もお客さんも全員参加でのラジオ体操第一。身体をあたためながら一体感を得て開始となりました。

開始と同時に多くの方にお越しいただき、各ブースには早くも行列ができました。早いところでは40分強で完売するお店が出るなど、大盛況となりました。



どんどん進歩する肺癌の診療 医療が解決すべきもう一つの問題

横浜のみならず、みらいにあるパシフィコ横浜ノースで開催された肺癌学会に参加してきました。

学会には、予防(検診など)、画像診断、内視鏡診断、病理診断、内科治療、外科治療、放射線治療、緩和療法など、多方面にわたる肺がん診療のブロが集まり、最新の研究成果を知ることが出来ます。いわき市内には呼吸器科医が少ないので耳学問の情報が少なく、全国学会が知識吸収の絶好の機会です。

ひんがら目(210)



が衰えて癌と闘えず高度な医学の恩恵に浴することなく力尽きている患者さんが多くなつたように思えます。
100人に数名しか陽性でない遺伝子異常を発見するために、高額な費用をかけて網羅的に検査が行われ医療コストが膨大になっていきます。検査会社や製薬メーカーにとっては巨大市場ですが、ヒットする患者さんは稀です。
人口の高齢化に伴い、医療の対象も高齢者がターゲットになりますが、一人の高齢者が抱える病気は一つではなく多岐にわたります。要介護の方に肺癌が見つかった時、コストやマンパワーを考えずに先進治療に突き進むことがよいかどうかは国民的に考えないといけない問題です。希少な疾患では、投資した研究費用を回収するためには医療費の単価が高騰します。命は平等だとは言いますが、最大多数の最大幸福の概念を今一度思い出す必要があります。

肺がんの治療は進歩が著しく、とりわけ薬物療法は日進月歩です。新薬開発には製薬メーカーがしのぎを削っています。学会併設の展示コーナーは、以前は手術器具や内視鏡器具の会社が主でしたが、今ではそれらは影を潜め、製薬メーカーが大半を占めるほどの巨大な市場になってきました。

嘗て副作用に苦しんだ抗がん剤は過去のものとなりつつあり、ほとんど苦痛のない薬が現実のものとなってきました。かしま病院でもそんな薬の恩恵にあずかっている患者さんも数名いらっしゃいます。

しかし、多くの患者さんにとってはがんとの闘いにはまだ険しいものがあります。癌細胞の遺伝子検査や、癌細胞の抗原を調べて、より有効な癌治療を目指す抗体が調べられていきます。癌細胞に対する抗体に抗がん剤をくっつけたADC(抗体薬物複合体)などの言葉を初めて耳にし、井の中の蛙であったことを痛感しました。

ただ、一歩下がって考えますと、医療が二極化しているのがわかります。華やかな医療の進歩の対極に、高齢のため生命力

限られます。医師数は増加している苦ですが、若い医師が、最新の医療の世界にばかり走ると、技術を覚えても使えないまま別の業務に移る医師や、特殊な技術を会得したものの一般的な診療のできない医師が増えてきます。そうなる、第一線の現場の医師不足はいつまでもたっても解消しません。

診療科のバランスを真剣に考えないと、自由競争の乱診乱療が横行しかねません。学会の進歩を学びながら、自己反省しつつ、次世代医療への懸念を覚えてください。この時代でも、究極を狙わないで中庸を行うことが必要によつてです。

(呼吸器科部長 山根喜男)



ようこそ

家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

第178回

怖～い大豊作



石井敦 病院長



ヒラタケ



ツキヨタケ

今年は夏場に雨が多く降った影響でマツタケが豊作でしたが、同じ理由で毒キノコも大豊作のようで、間違えて食べてしまい食中毒になる人が相次いでいるようです。

10月末、山口県で40代女性が自宅の庭に生えていたオオシロカラカサタケをバターで炒めて食べ、中毒症状を起こして入院したことが報じられました。

更に、まるで人の指のような形で真っ赤な色をしているカエンタケという毒キノコが都内の公園で見つかったほか、八王子や奥多摩地域でも相次いで発見されました。カエンタケは、食べると消化器系の中毒や神経系の障害をもたらしますし、手で触れてしまうだけでも炎症を起こし、皮膚がただれる恐れがあります。

また、食用のフウセンタケと傘の色や形が瓜二つの毒キノコにクサウラベニタケがあります。専門家ですさえも見分けが難しく“名人泣かせ”と言われています。

同じく食用のヒラタケと見た目が酷似したツキヨタケは、食中毒の発症報告数が最も多く、キングオブ毒キノコと称されています。

いずれも専門的な見分け方はあるようですが、私たち素人がキノコ中毒を避けるためには「採らない、食べない、人にあげない」という原則を守るしかないようです。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第165回

家屋調査について

当院の回復期リハビリテーション病棟では、退院後も自宅で安全に快適に生活できるように、入院中に患者様の自宅を実際に訪問する「家屋調査」を実施しています。訓練によって身体機能や動作能力の向上を図ることはもちろん、実際に生活する場の環境調整を行い、円滑な動作の獲得や介助量の軽減を図ることもリハビリの重要な役割です。担当の理学療法士、作業療法士が中心となり、玄関・居室・トイレ・浴室・廊下・階段・屋外環境などを評価し、必要な福祉用具や住宅改修についての提案を行います。患者様ご本人が同行できる場合は、実際に自宅内外を移動してもらい、手すりの位

置や家具の配置などを決め、ご本人やご家族へ向けての安全な動作指導もその場で行います。車椅子の場合は家の出入り手段（スロープや電動昇降機）、段差解消、駆動スペースの確保が重要となります。家屋調査には担当ケアマネージャーや福祉業者の方も同伴し、ご本人やご家族の意向に沿った提案をしていきます。また、家屋調査の結果をもとに、自宅での生活を想定したリハビリテーションの提供を行います。

このように私たちリハビリスタッフは、患者様が退院後も自宅で安全に不安なく生活できるように、患者様の身体状況に合わせた環境を提供することを目的に家屋調査を実施しています。今後も、患者様が自宅で安全に生活できるよう多職種と連携し支援していきます。

作業療法士 古市愛理



かしま荘通信

芋煮会

11月13日(水)



11/13(水)かしま荘屋上にて芋煮会が開催されました。豚汁や鮭のちゃんちゃん焼きの他に、かしま名物「かしま焼き」も!「美味しい」と喜んでいただき、晴天の中、みんなで楽しく会話をしながら食べるご飯は絶品でした!



盲導犬についての医療安全研修を行いました。



10月29日(火)、当院コミュニティホールにて盲導犬についての医療安全研修を行いました。講師には、公益財団法人日本盲導犬協会仙台訓練センターの池田義教様と盲導犬PR犬のラスくんをお招きし、盲導犬をつれた患者さんへの対応の仕方などを学びました。

